

武藤芳照の正義



故も社会的話題にまでなっている。子どもたちの体格・体力・運動能力に見合った課題の設定と安全で安定した組み立て方、適切な段階的指導が事故予防に結びつくはずだ。

平成24(2012)

年度からの中学校武道必修化により、柔道、

剣道などの授業中の生

徒の救急事故への不安

と懸念が学校現場には

今も間違いなくある。

事故事例の分析に基づ

く、正しい技と指導

法、間違った技の改善

し、一瞬にして四肢マヒをきたす救急事故のリスクがある。

そうした重大事故が

どのようにして起こる

のかという原因とメカ

ニズムを知り、正しく

安全な水泳の実施がな

されるような指導・教

育が重要だ。

「予防に勝る治療は

ない」は、スポーツに

おいても真理だ。一件

の死亡例があるという

ことは300例のヒヤ

リハット事例があるこ

とを表している(ハイ

リッヒの法則)。

スポーツに伴う救急事故を防ぐ

日本体育大学では、社会貢献の一環として、公開講

梅雨が明け、夏の到来と共に、シヨギン、マラソン、テニス、ゴルフ、野球などの屋外でのスポーツ中の熱中症や脱水を基盤にした心筋梗塞などの救急事故が起き、救急車で搬送される事例が生まれる。

全国各地の市民マラ

ソンの人気はうなぎの

ぼりで、参加者が増え

ることはうれしい悲鳴

だが、十分に練習をせ

ずコンディショニング

が必ずしも万全でない市

民ランナーの参加は、救

急事故のリスクを高め

る。

また、小・中学校の

運動会での組立体操の

ピラミッドやタワーに

伴う転落による頭部外

傷・骨折などの救急事

法を明確に示すことが、救急事故の予防に役立つだろう。

夏のスポーツの代表

と言えは水泳だ。子ど

もから高齢者、障害の

ある人、妊婦さんまで

安全で健康的なスポー

ツとして愛されている

。しかし、一方、水

の中の運動であるが故

に起きる救急事故があ

る。とりわけ、溺水・

溺死、飛び込み(スタ

ート)により水底で頭

部を強打して頸椎(け

いつい)・頸髄を損傷

(日体大総合研究所 長)